

いけ がみ い せき 池 上 遺 跡

△ 令和4年3月12日(土)
現地見学会

今回の見学箇所

国道125号線

(仮称)道の駅「くまがや」整備予定地

至行田市

池上遺跡周辺では、これまでに開発に伴う発掘調査を数回にわたり実施していて、最近では平成30年度、令和元年度に池上遺跡・鶴巻遺跡の範囲内で県営ほ場整備事業に伴う発掘調査が実施されました。

今回の池上遺跡の発掘調査は、(仮称)道の駅「くまがや」の整備に伴い、令和2年度から実施しています。

見学会では、今から約2,000年前から池上地区においてどのような暮らしがあったか、自然とどのように共存してたかなど、古代の熊谷について理解を深めていただければ幸いです。

見どころ案内

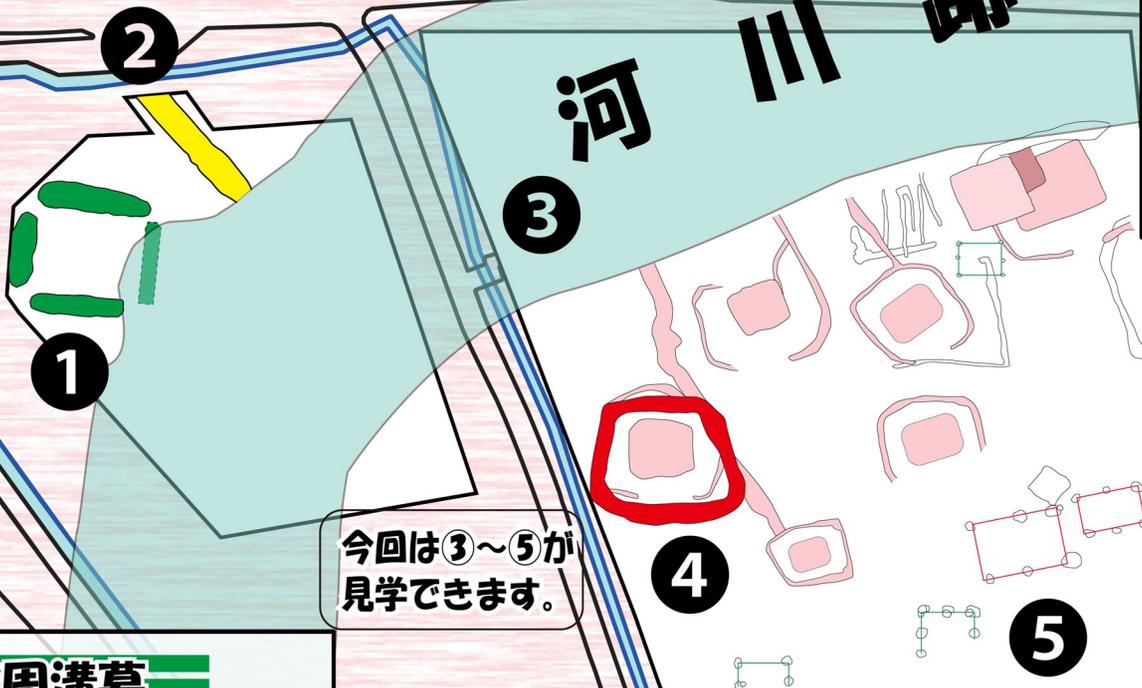
3

河川跡

古墳時代前期から奈良・平安時代（4世紀～9世紀ごろ）までの幅約30mの河川跡が検出されました。左岸からは古墳時代前期の集落から廃棄されたと考えられる多量の土師器や木製品などが出土しています。



河川跡



今回は③～⑤が見学できます。

1 方形周溝墓

周溝の四隅が切れるタイプの方形周溝墓が検出され、周溝からは弥生時代中期（およそ2千年前）の弥生土器壺が出土しました。



2 環濠

昭和56、57年の調査で検出された、弥生時代中期の集落を区画していたと考えられる環濠の南延長部分が検出されました。ここでは多量の弥生土器が出土しました。左写真中央のものはほぼ完形の甕で、底部に故意に開けられた穴がありました。



4 周溝持壁穴建物跡・方形周溝墓

河川跡の南で古墳時代前期（4世紀）の排水施設とされる溝を備えた周溝持壁穴建物跡が、これまでに7棟検出されています。うち1棟は、のちに周溝が全周タイプの方形周溝墓に改変されています。今後は、建物と墓の関係について考えていくことが課題です。



5 掘立柱建物群

これまでに8棟検出され、建物の主軸方向から少なくとも2時期（緑と赤）の建築時期（8世紀～9世紀）が考えられます。柱穴の中には、基礎固め工法の一つである礎板や柱の下部が残存していました。



池上遺跡のQ&A◎

かんざう 環濠ってなに？

環濠は、集落の周囲に堀をめぐらせたもので、稲作とともに大陸から伝来し、関東へ波及したものと考えられています。

西日本ではムラ間の争いなどの防御施設などといった例がありますが、池上遺跡の環濠は外界との境界とともに水田などを供給する用水の役割があったとも考えられます。池上遺跡の集落は環濠の北東側に広がっています



環濠集落のイメージ

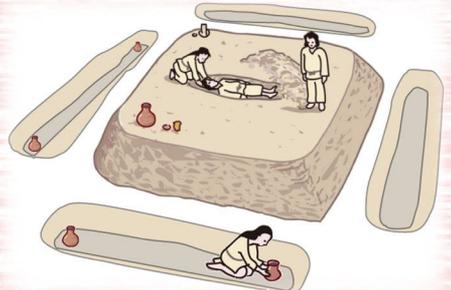
ほうけいし・うごう ほう 方形周溝墓ってなに？

主に方形に盛った塚の周囲を溝（周溝）で区画した墓のことです。

この墓は、弥生時代前期～古墳時代前期に盛んに築造されました。

周溝は、時代によって違いがあり、おおむね弥生時代は四隅が切れるもの、古墳時代は全周するものと大別できます。

池上遺跡ではどちらのタイプも検出されています。



四隅が切れるタイプの方形周溝墓のイメージ

しゅうこうもちたてあな じてもの 周溝持竪穴建物ってなに？

竪穴建物は、通常地面を掘り下げて、柱を立て、屋根を被せます。

池上遺跡では、古墳時代前期の建物の周囲に溝が掘られていました。これは集落の立地から、川に近いことから浸水による被害を考えての設備と考えられます。また、竪穴の掘り下げはさわめて浅い、もしくは掘らないままの建物であった可能性も考えられることから、川のそばに住み、いかに水を得ることに必死だったかを我々に伝えてくれます。



全周タイプの方形周溝墓のイメージ



周溝持竪穴建物のイメージ

最新情報を随時更新中！



主催：熊谷市教育委員会 江南文化財センター

TEL 048-536-5062

mail c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

検索